

論文構成

【序論】
 研究目的・研究方法・既往研究・基礎事項

【本論】
 第1章 荘園現在地比定に関する研究の全体像
 1-1 はじめに
 1-2 荘園研究の資料
 1-2-1 各時代の様々な古文書
 1-2-2 絵図資料
 1-2-3 考古学的資料
 1-3 荘園の現在地比定に関する研究
 1-3-1 清水正健『荘園志料』
 1-3-2 『角川日本地名大辞典』
 1-3-3 『日本歴史地名大系』
 1-3-4 「日本荘園データベース」
 1-4 歴史地図の作成
 1-4-1 竹内理三 編『荘園分布図』
 1-4-2 「日本荘園データベース CD-ROM」
 1-5 各研究の関係
 1-6 小結
 2章 『荘園志料』における現在地比定（越前）
 2-1 はじめに
 2-2 『荘園志料』の現在地比定における特質
 2-2-1 清水正健の手法
 2-2-2 明治以前の町村制・近世郷
 2-3 比定論拠による類型化
 2-3-1 比定論拠の分類と分類基準
 2-3-2 結果
 2-4 小結
 3章 「日本荘園データベース」を利用した現在地比定
 3-1 はじめに
 3-2 「日本荘園データベース」の現在地比定の方法
 3-2-1 「日本荘園データベース」の手法
 3-2-2 分類
 3-3 「日本荘園データベース」を利用したプロットの作成
 3-3-1 目的
 3-3-2 現在住居表示との照合
 3-3-3 比定手順による分類
 3-3-4 結果
 3-4 小結
 4章 考察：荘園志料と日本荘園データベースの照合

【結論】
 参考文献・図版出典

【序論】
研究目的
 荘園現在地比定に関する研究における「日本荘園データベース」の位置付けを明らかにすること。中世荘園と現在の地域とを結びつける手法を確立すること。

研究方法
 荘園現在地比定に関する主要な研究について、史料と研究の関係性をまとめる（1章）。それら研究の現在地比定の論拠を明らかにし（2章）、「日本荘園データベース」を用いたプロット手法を検討する（3章）。

既往研究
 ○庄子幸佑「現代日本における古代社会の影響に関する理論的研究—古代地名の現在地比定の分析を元に—」（早稲田大学修士論文,2014）
 既往研究における古代地名（＝和名抄郷名）の現在地比定の方法を示し、特に『角川日本地名大辞典』についてその比定精度と比定根拠について分類。〈古代地名の現在地比定〉を「現代社会と古代社会を空間的に結びつける行為」と定義づけ、その残存度が地域的な傾向を持つことを分析により示した。

基礎情報—荘園公領制
 荘園：皇族、貴族、有力社寺が領有した土地
 荘、院、廩、牧、浦、…
 公領：朝廷の領有した土地
 郷、保、別府、別名、…

【本論】
1章 荘園現在地比定に関する研究の全体像
1-2 荘園研究の資料
 ●各時代の様々な古文書
 荘園や郷・保などの実体分かる文献は少ない。大田文・図田帳といった土地台帳が現存する地域もある。主に地域内に残る金石文や公家の日記に見られる断片的な記述を利用する。
 ●絵図資料
 中世の荘園絵図や近世の村絵図、耕地や水路については明治時代の切絵図や地形図を用いる。

●考古学的資料
 地形の復原と集落と耕地の復原など。

1-3 荘園の現在地比定に関する研究
 清水正健『荘園志料』
 清水正健（1856—1934）は明治～昭和期の歴史学者。日本全国の荘園を収集した本書は荘園研究において辞書的な役割を果たしており、「中世史研究者の座右の書とされている」と評価される。
 『角川日本地名大辞典』
 1978年～1990年に角川書店から刊行された地名辞典。荘園については中世の歴史的行政地名として掲載され、古代・近世・近現代の地名と並んで記述。
 『日本歴史地名大系』
 1979年～2005年に平凡社から刊行された地名辞典である。荘園については交通と産業に関する地名として掲載され、各市町村の中に五十音順で並べられる地名の一つとして記述。
 「日本荘園データベース」
 『荘園史料』をベースに、一部補完しデータベース化、8974件をweb公開したもの。
1-4 歴史地図の作成
 竹内理三 編『荘園分布図』
 荘園分布を全国規模で初めて地図上に記したものの。『荘園志料』を元に日本全国でプロットを行った。「荘園志料の誤りを多分に含む」とも評価される。
 「日本荘園データベース CD-ROM」
 「日本荘園データベース」のデータをもとにして、検索結果を地図上にプロットできるシステム。現在地比定可能な各荘園について、[参考市町村]を一つ付与し、市町村レベルでのプロットが可能であった。Windows98のみ対応。

荘園現在地比定

各時代の様々な古文書、金石文

↓ 蒐集・整理

『寧楽遺文』(1943-1944)
『平安遺文』(1947-1967)
『鎌倉遺文』(1971-1992)

『荘園志料』(1933)

↓

『角川日本地名大辞典』(1978-90)
『日本歴史地名大系』(1979-2005)

『明治村字名』

↓

「日本荘園データベース」(1993)

荘園プロット

抽出・現地調査により比定

↓

『荘園分布図』(1975)
※広域地図中に比定

↓

「日本荘園データベース CD-ROM」(1993)

図1：中世荘園地の現在地比定に関する既往研究の関係（筆者作成）

2章『荘園志料』における現在地比定
2-2『荘園志料』の現在地比定における特質
 本書の精読により、清水の現在地比定の方法は
 ・古書旧記から可能な限り荘園や保の名称を収集する（郷は除く）《収集》
 ・町村合併以前の郡名・村名に比定する《比定》
 ・町村名に荘保が残るもののうち、荘名が記録に無いものを附載する《推測》
 の3段階であることがわかった。
 2-2-2 明治以前の町村制・近世郷
 近世の村は「国—郡—藩政村」という枠組みにあった。複数の村により形成された近世郷は郡と藩政村の中位単元領域であり、「郷」「荘」「谷」などの名称が見られた。「中世末期の領域支配の単位として、あるいは共同体の結合に適した領域としてに意味を有していた郷・荘は、幕藩体制下においては多くの場合、領域と視点も実質的意義を失うにいった。」（山澄元「近世・明治初期における歴史的領域」『人文地理 第17巻1号』（1965）p.25）

2-3-1 比定論拠の分類と分類基準
 『荘園志料』記載荘園の所在地比定根拠は、下記8つに分類された。

1. 近世郷名を根拠とする（荘園名）
2. 藩政村名を根拠とする（荘園名）
3. 藩政村名を根拠とする（史料中の村郷名）
4. 城址・式内社・山名を根拠とする（荘園名）
5. 和名抄郷・古代驛名を付記する（荘園名）
6. 比定に関する記述がない
7. 近世郷名を参考にする
8. 近世村名を参考にする

2-3-2 分類結果
 表1：『荘園志料』越前国の比定論拠（筆者作成）

郡名	荘園名	比定論拠							
		①史料村郷	②近世郷名	③近世村名	④施設名	⑤古代驛・和名抄郷	⑥なし	⑦附載	⑧附載
合計		2	28	38	14	17	36	10	6
割合		1.6%	21.9%	29.7%	10.9%	13.3%	28.1%	7.8%	4.7%

3章「日本荘園データベース」を利用した現在地比定
 本章では、「日本荘園データベース」の各項目の論拠を確認し、現在地に結び付ける手法を検討する。具体的な作成手順について、現在地比定に至る内容をまとめると以下のようになる。
 ①『荘園志料』に収録された「荘園」を抽出し、「荘園名」「領主」「出典」「初見年」「史料村郷名」「比定地の村字名」などの情報を収録。
 ②『平安遺文』『鎌倉遺文』などから荘園名を抽出し

追加、随時各荘園の情報を増補。

③『角川日本地名大辞典』『日本歴史地名大系』などで各荘園の比定地を調べ参考市町村を決定。

④点検し修正（体裁・「地元にも明るい研究者」による判断）。

①②は清水的手法であり、『荘園志料』以降に新たに追加された荘園についても、明治村字名の判明を試み、清水と同様の現在地比定を行なっている。③④によって既往研究成果を統合し、荘園の存在の妥当性や所在地などの判断を行なっている。

【明治村字名】が判明しているものの【参考市町村】が入力されていないものには

1. 重複コードが設定されている
2. 荘園の存在が妥当でない

がある。すなわち、【参考市町村】は「日本荘園データベース」による現在地比定とその妥当性の判断結果である。

3-2-2 分類

【参考市町村】存在が確かだと判断できる荘園（異名・分割など重複のあるものは代表的なもの1つ）と関連があると思われる市町村名 → 荘園 DB による選別

【明治村字名】

「清水的手法」により比定された明治以前の近世村名 → 現在の大字を比定可能

【地名辞典】

既往成果により比定された現在地の情報

→ 他手法による比定情報

この3情報を組み合わせた下記4つの手順分類により、「日本荘園データベース」を利用した荘園所在地プロットが作成できる。

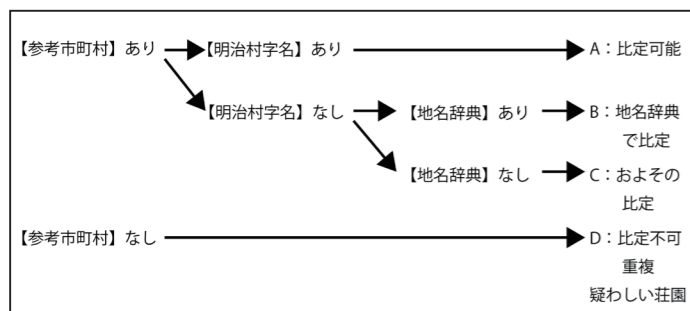


図2: 「日本荘園データベース」を利用したプロット手法の分類フロー (筆者作成)

表2: 「日本荘園データベース」越前国 194 荘園のプロット分類別内訳 (筆者作成)

分類	現在地比定	【参考市町村】	【明治村字名】	【地名辞典】	データ数	割合
A	可能		あり	-	114	58.8%
B	可能	あり	なし	あり	10	5.2%
C	不可		なし	なし	32	16.5%
D	不可	なし	-	-	38	19.6%

4章 考察: 荘園志料と日本荘園データベースの照合

『荘園志料』『日本荘園データベース』は荘園・公領のうち公領の中でも「郡」「郷」のみを含まない。このことから、中世荘園プロットと既往の古代郷プロットとを重ねることで、古代から継承される「郷」と中世に開発・再編されていった「荘園」との分布を捉えることができた。

結論

中世荘園所在地の現在地比定について、

- ・各資料による研究成果が「日本荘園データベース」に集約されていること
- ・多くが荘園名を根拠に近世郷や藩政村に比定されていること
- ・プロット分布から開発や再編の傾向が見られることを明らかにした。

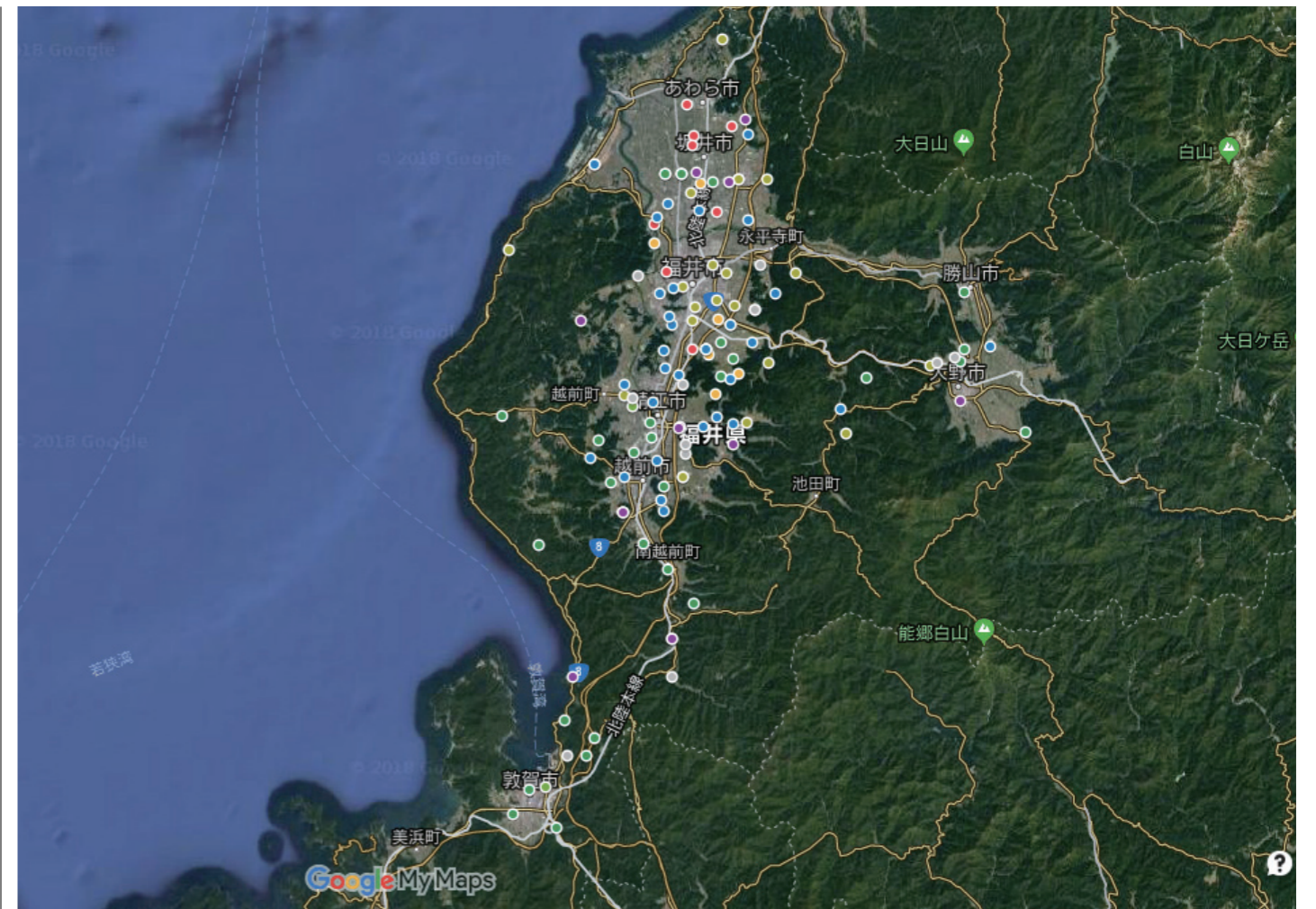


図3: 越前国における各荘園のプロット (GoogleMaps 航空写真を用い筆者作成)

参考文献

■中世史に関するもの

古島敏雄・和歌森太郎・木村礎 編『中世郷土史研究法』(朝倉書店,1970)

■土地所有に関するもの

カール・マルクス『資本主義的生産に先行する諸形態』(大月書店,1963)

竹内理三 編『土地制度史Ⅰ』(山川出版社,1973)

北島正元 編『土地制度史Ⅱ』(山川出版社,1975)

渡辺尚志・五味文彦 編『土地所有史』(山川出版社,2002)

■中世荘園に関するもの

清水三男『日本中世の村落』(日本評論社,1942)

石母田正『中世的世界の形成』(伊藤書店,1946)

永原慶二『荘園』(吉川弘文社,1998)

水野章二『日本中世の村落と荘園制』(校倉書房,2000)

海老澤衷『中世の荘園空間と現代』(勉誠出版,2014)

■中世村落に関するもの

矢嶋仁吉『集落地理学』(古今書院,1956)

木村礎『日本村落史』(弘文堂,1978)

■近世郷に関するもの

山澄元「近世・明治初期における歴史的領域」『人文地理 第17巻1号』(1965)

岩崎公弥「近世郷の成立と藩政村—肥前国神埼郡の場合—」(地理科学学会『地理科学 29』(1978)

藤田和敏『近世郷村の研究』(吉川弘文館,2013)

■「日本荘園データベース」に関するもの

福田豊彦「『日本荘園データベース』への招待」(国立歴史民俗博物館研究報告 35集,1991)

福田豊彦「史学とコンピュータⅠ—『日本荘園データベース』の作成を通じて—」(国立歴史民俗博物館研究報告 57集,1994)

国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書 6 日本荘園データ 1』(国立歴史民俗博物館,1995)

国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書 6 日本荘園データ 2』(国立歴史民俗博物館,1995)